

# 富医ニュース

No.617 令和4年12月1日

一般社団法人 富田林医師会

会長 藤岡 洋

〒584-0082 富田林市向陽台1丁目3-38

TEL.(0721)29-1210 FAX.(0721)28-0858

E-mail: mail@tondabayashiishikai.jp

## 令和4年度 「医師会あすか会」

去る令和4年11月12日(土)、ホテルロイヤルクラシック大阪にて「医師会あすか会」が開催されました。

今回は柏原市医師会が主幹であり、副会長の弓崎恭俊先生の司会進行のもと、藤江博会長より3年ぶりの開催を祝うご挨拶がなされました。引き続き大阪府医師会理事であり、関西医科大学附属病院救急医学講座教授の鎌方安行先生より「大規模災害時の被災者医療について～感染症に配慮した避難所マニュアルアップデートを含む～」との演題にて、平成30年6月の大阪府北部地震におけるJMATの活動や、避難所診療情報の有力ツールである「JSPEED」などにつき、臨場感あふれるお話をいただきました。

続いての懇親会では、ご来賓の大阪府医師会会長の高井康之先生よりご挨拶をいただき、大阪府医師会副会長の加納康至先生の乾杯にて開宴となりました。各テーブルに8医師会の先生方の席が決められており、最初のうちは少し緊張感があったもののお酒が入るうちにざっくばらんの話になりとても有意義な時間となりました。開宴後壇上では各医師会ごとに、会員一人ひとりの自己紹介がなされ、大学病院時代や勤務医時代の同僚や先輩・後輩の笑顔があちらこちらで見られ、懐かしいひと時を過ごすことが出来ました。会員紹介の最後には次年度主幹の大阪狭山市医師会会長の芝元啓治先生より、あすか会の歴史などのお話があり、柏原市医師会理事の吉原秀高先生の閉会の挨拶で終了となりました。

前身の阪南ブロック懇話会が富田林の清光園で開催されてから45年以上の歳月が流れましたが、伝統あるこの会の益々の発展を期待致します。

### 調 整 日

11月分 12月8日(木)  
PM3:00まで

12月分 1月6日(金)  
PM3:00まで

### 12月の予定

- 8日(木)・調整日
- 15日(木)・学術講演会  
(ハイブリッド)
- 19日(月)・訪問看護ステーション  
運営委員会
- 20日(火)・広報調査委員会
- 23日(金)・広報調査委員会  
(校正)
- 28日(水)・事務局仕事納め
- 29日(木)  
)・年末年始事務局休業  
1月  
4日(水)
- 5日(木)・事務局仕事始め  
・休日診療委員会



## 令和4年 11月定例理事会

日 時 令和4年11月11日(金)  
13:30~15:00  
場 所 医師会 大会議室

### 会長挨拶

### 報告事項

- 1) ニューレジリエンスフォーラム関西ブロック「大阪大会」開催(会長)
- 2) 12月に死体検案研修会をWEBで視聴可(会長)
- 3) 休診での発熱外来を始めるにあたって(休日診療委員会)
- 4) 消防の広域化について(小児救急の電話対応が消防から市町村へ)(藤岡雅理事)
- 5) 令和4年度学校医総合講習会資料の送付について
- 6) 第31回日本医学会総会2023東京の産業医講習登録について
- 7) 新型コロナウイルス感染症・自宅療養者への対応可能な訪問看護ステーションについて
- 8) 新型コロナウイルス感染症及び季節性インフルエンザに係る医療機関・保健所からの証明書等の取得に対する配慮について
- 9) 千早赤阪村予防接種健康被害調査委員会委員の選任→藤岡会長、藤岡雅理事(11/1より2年)
- 10) 南河内医療・病床懇話会会員に→藤岡会長就任(R4.4/1より2年)

### 協議事項

- 1) 入退会の件
- 2) 市町村ごとの発熱外来体制の整備について
- 3) 後期高齢者広域連合の健康診査におけるフレイル健診について



## 富田林医師会学術講演会(Web形式)

日時 令和4年12月15日(木) 14:00~15:00  
ハイブリッド開催

会場 医師会 大会議室

座長 やまもと整形外科医院 山本 善哉先生

演題 「炎症性腸疾患の地域での取り組み」

大阪府済生会富田林病院 消化器内科

山田 光成先生

炎症性腸疾患(Inflammatory Bowel Disease: IBD)は慢性炎症をきたす腸疾患ですが、その中でも潰瘍性大腸炎やクローン病をさす事が多いです。これまでのIBD診療は大学病院などの高度医療センターが中心となって行われてきました。しかし現在も患者数は増加傾向にあり、これまで行われていた高度医療センターのみでは対応が追い付かない状況になりつつあります。その結果として当院を含めた中規模病院やクリニック・診療所での対応が求められるようになりつつあります。

IBDは難治性とされていますが、病態(活動期と寛解期)の違いや、他の自己免疫疾患との違いから、検査や治療の理解を難しくさせているように思われます。また検査や治療において最近になりその選択肢が増えたことも対応を更に難しくさせていると思われます。検査についてはIBDの病態を反映するものは大腸内視鏡検査や大腸粘膜の病理検査が望ましいのですが、患者負担が大きいことから代替となる補助的検査が望まれています。治療については様々な新規治療薬が使用できるようになり、中規模病院やクリニック・診療所などでも対応可能な治療の幅が広がったように思われます。今回講演の機会を頂きましたが、IBDのガイドラインで提案されている検査・治療についてご説明させて頂き、現在当院で可能な検査・治療についてご提案させて頂きたいと考えております。

またこれからの地域の医療の連携についてもご提案ご相談させていただきたいと考えております。

大阪府医師会生涯教育制度「1単位」およびカリキュラムコード「50(吐血・下血)」と「54[便通異常(下痢・便秘)]」を申請中です。

## 専門医より一言

「生活支障度と病態に応じた頭痛診療  
～診断から治療まで～」



近畿大学病院 脳神経内科  
准教授/遺伝子診療部副部長  
西郷 和真 先生

今回は、講演の機会をいただき、本当にありがとうございました。

2021年に新しい頭痛ガイドラインとして「頭痛の診療ガイドライン2021」が発刊されました。今回の発刊では、国際頭痛分類第3版とも連動し、2次性頭痛も追加されました。

それと同時に、片頭痛予防薬として抗CGRP抗体関連薬である注射薬が3剤上市されました。この薬剤のインパクトは、大きな反響を呼び、多くの片頭痛患者の福音となっています。

そして2022年の本年には、トリプタン以来の新しい急性期治療薬としてラスミジタンが上市されました。この薬剤は血管収縮作用がないこと、頭痛発作後1時間以降に服用しても有用性が確認されており使用しやすい薬剤とされています。

さらに、海外で使用されている経口投与が可能な低分子のCGRP受容体拮抗薬も日本での臨床応用も検討されています。これら新しい薬剤には、それぞれ適性にあった使用方法があります。

今回は、発刊された頭痛診療ガイドラインに沿って、片頭痛研究から解明されてきた病態について初めに概説させていただきました。さらに、既存のトリプタンをはじめとする今までの治療法、そして最近に上市された新規抗CGRP関連抗体薬の使用方法について解説させていただきました。

今回の発表が先生方の明日への診療の助けとなれば幸いです。



## バトンタッチ (第4回前編) Another sky

ふとテレビを見ていたら、コロナ禍のため、一旦は終了した紀行番組「ANOTHER SKY」が復活をしていました。この番組はゲストの「海外の第2の故郷」や「憧れの地」をテーマとしており、私の好きな番組の一つです。そんな感じで今回は旅行について。

皆さんは旅行が好きですか。今まで行った中で、再度訪れたい場所や憧れの場所はどこですか。

私の場合は、チリ・アルゼンチンの南の地域「パタゴニア」。たまたま見た写真(トレス・デル・パイネ)の風景を直で見たい願望で行くと決めた場所。日本の裏側、トランジットの待ち時間を含めると、行くまでにトータル約40時間。パタゴニア旅行で行けた町は限られていましたが、その中でも特に思い出に残っている風景などをガラガラとまとまりのない文章で紹介させていただきます。お時間が許せば、ご覧ください。



まずは憧れのトレス・デル・パイネ国立公園。1日目はバスツアー、英語とスペイン語のため、ツアーの説明はほとんど分からなかったが、思い焦がれていた景色をパシャと。

本当に綺麗な景色で、しばらく自由に散策したかったが、ツアーのため、そそくさとバスに戻る。もっと近くから自由な時間だけ見たいと望み、次の日はトレス・デル・パイネの麓を目指す。20キロを超えるバックパック、何度も捨てようかと思いながら、4時間のトレッキング。景色は最高であったが、疲れはハンパなし。やっと着いた麓、テントを設営した時に断熱マットを忘れたことに気づく。



まあいいかと思いつつ、麓からパシャっと。



遠くから見た方が綺麗だなと思いつつも、道中の景色には大変満足。その日はテントで寝るのだが、ここで断熱マットがないことの重大さに気付かされる。寝床は固く、底冷えが半端ない。極度の疲れからなんとか眠れたが、何度も目を覚ます。熟睡感はなく疲れは取れず、朝を迎える。疲れと寝不足ではあったが、登ったからには降りなくてはと、同じ道を帰る。やはり何度もこの荷物を捨てようと思う。ホステルに戻ると、早々と今回の目的が果たされた。旅は始まったばかり、次の目的地を探すために、地球の歩き方と睨めっこ。

睨めっこの結果、次の目的地はエル・カラファテ。南米最大の氷河がある町。

アルゼンチンサイド。現地で仲良くなった日本人と、一緒に氷河ツアーに参加。氷河の水で飲むウイスキー、初めての氷河の大きさや氷河で飲むウイスキーの美味さ(プラセボ効果はあったと思います)などに感動はするものの、それ以上のものはなかった。

そんな感じで次の目的地を決めるために再度、地球の歩き方と睨めっこ。

次の目的地は来月へ、今月はここまで。お付き合い頂き有難うございます。

来月はこの続きですので、もし興味が少しでも湧いて、次回も読んで頂けたら幸いです。

(ペンネーム yukimajo)



## 11月行事・会合

1日(火)・休日診療委員会

8日(火)・調整日

11日(金)・理事会 13:30～

12日(土)・医師会あすか会

17日(木)・学術講演会

21日(月)・訪問看護ステーション運営委員会

22日(火)・広報調査委員会

25日(金)・広報調査委員会(校正)

29日(火)・休日診療委員会

・感染症対策委員会

・外来感染症対策カンファレンス

富田林医師会 社会保険労務士

八木 博文氏を選任いたしました。

各医院の労務管理の相談も受けて頂けますので、お気軽にご相談ください。

○会員数(12月1日現在) 172名

A会員 94名 B会員 77名 C会員 1名

○入会 12月1日

小松 輝大 A2B (PL病院 整形外科)

○退会 なし

○異動 なし

### 広報調査委員会

委員長	齊藤 謙介	副委員長	森井 秀樹
委員	青山 賢治	天城 完二	今城 幸裕
	植村 匡志	江村 俊也	奥野 敦史
	尾多賀 雅哉	遠山 佳樹	中村 元
	藤岡 洋	山本 善哉	山本 秀文